

東北海区沿岸水温予報(2006年)

| 海域 | 経過 (9~11月) | 現況(11月下旬~ 12月上旬) | 見通し (12~2月) | 見通しの背景 | 特異現象 (漁海況) |
|--------------------------------|---|--|--|---|---|
| 三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水研七発表) | 定地水温 9月: 平年並, 10月: やや低い 11月: 平年並 津軽暖流流勢指標(9月) 各層最高水温: 0m層: 高い, 50m層: 低い, 100m層: やや低い 水塊深度: 平年並 張り出し位置: 平年並 | 定地水温 11月下旬: 平年並~ やや高い 12月上旬: 平年並 津軽暖流流勢指標(12月) 各層最高水温: 平年並 水塊深度: 平年並 張り出し位置: やや強め | 津軽暖流の水温は平年並で推移する。 津軽暖流の東方への張り出しは平年並からやや弱めで推移する。 | 沿岸定地水温は、これまでのところ概ね平年並で推移している。 12月の日本海沿岸定線観測結果では、対馬暖流の勢力はかなり弱勢であった。 | 不漁で経過していた今期のスルメイカ漁であるが、11月下旬に太平洋側(白糠)の定置・釣りでもとまった漁獲がみられた。 |
| 三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水七発表) | 9月 表面: 県南部沖合0~20海里で1~3程度高め, 県中部沖合30~40海里から県南部沖合30~50海里にかけて1~2程度低めの他は平年並 100m: 県中部沖合10~30海里で3程度高めの他は平年並~6程度低め 10月 表面: 県北部沖合30~40海里で1程度高め, 県南部の距岸10海里以内で2程度高めのほかは概ね平年並 100m: 東経142°20'以東で1~5程度低めのほかは平年並 11月 表面: 尾崎沖合30~50海里付近で1程度低めのほかは平年並 100m: 黒崎沖合20海里付近で2程度高め, トドヶ崎沖合20~50海里から椿島沖合30~50海里付近にかけて1~6程度低めのほかは概ね平年並 | 本県沿岸10海里以内の表面水温は全域で13台で、津軽暖流に覆われている。(衛星画像) 200m深で5以下の水帯が襟裳岬から県中部沖合60~90海里を南下し、その先端は県南部沖合100海里にある。(JAFIC情報) | 津軽暖流は引き続き本県沿岸全域に分布し、その沖側を親潮第一分枝が南下する水塊配置となることが予想される。 水温は、沿岸は平年並、沖合は平年並~やや低めで推移する予想される。 | 経過期間中から水塊配置の変化が見られないことから、沿岸は平年並で推移するものと予想される。 季節変動として沖合へ親潮系冷水が流入してくことから、沖合は平年並~やや低めで推移するものと予想される。 | 12月上旬に定置網へ大型スルメイカ(外套長30cm台)のまとまった入網があった。 定置網のアキサケは、盛漁期後半である12月上旬に漁獲が集中した。 |
| 三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水七発表) | 9月には、表面水温は概ね22~25台で、平年並または平年より1~3高めであった。100m深水温については、雄勝沖合(38°30'N)周辺の142°30'E以東の沖合海域を中心に3以下の冷水が存在して平年より3~7低く、一方、黒崎沖合(38°N)周辺の海域は15前後の暖水に覆われ平年より1~5高めであった。 10月上旬には、表面水温は概ね20~23台で、平年並または平年より1~3高めであった。100m深水温は、12~15台となり、ごく沿岸域を除き1~4高めであった。 10月下旬には、表面水温は概ね15~19台で、平年並または1~2高めであった。100m深水温は12~16台であり、平年並または平年より1~3高めであった。 | 11月下旬には、表面水温は概ね12~15台で、平年並または1~2低めであった。 また100m深水温については、雄勝沖合(38°30'N)の142°50'Eの海域では4~11、そのほかの海域では概ね9~14台であった。平年との比較では、雄勝沖合142°50'Eの海域では2~8低め、そのほかの海域では平年並または1~3低めであった。 | 142°50'E以東の雄勝沖合(38°30'N)周辺では、1月には平年より低めだが、2月には平年よりやや高めで推移する。 沿岸よりの海域では、1月から2月にかけて、ほぼ平年並で推移する。 この他の海域では、1月に平年より低めだが、2月には、ほぼ平年並で推移する。 (親潮系水の影響等によって、1月には沖合の全海域で、平年より低めだが、2月については、ほぼ平年並で推移するとみられる) | 「沿岸定線データを用いた宮城県沿岸海域の海況予測モデル」によって海況予測を実施した。 (2006年12月の類似年は1997年12月であった) | ・マイワシの水揚げが好調に推移している(9~11月の水揚量は対前年で448%) |
| 常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表) | 期間を通して本県沖距岸30海里付近より灘側に親潮由来とみられる低塩分水の分布が継続したが、沖合では黒潮系暖水の顕著な波及が継続し、距岸50海里以内の100m深における平均水温は平年よりやや高めが続いた。 | 黒潮系暖水の勢力が強まり、本県沖中南部海域の20海里より沖合を中心に広く波及がみられた。水温は表面で平年より極めて高い水温を記録した定点も多くみられ、100m深水温の距岸50海里内平均では平年よりやや高めとなった。 | 灘側では平年並みの水温となるが、本県南部海域沖を中心に暖水波及が継続し、沖合では平年よりやや高めの水温で推移すると予測される。 | 統計的手法による予測では現状の水温の高め傾向は期間後半に向け収まり、偏差の偏りも1ヵ月後にはなくなり、海域全体で一様に平年並みの水温となると予測された。しかし現況では黒潮流の北限が福島県沖にかかっており、この影響はしばらく継続するとみられるため、本県沖への暖水波及傾向はしばらく継続するとみられる。 | ・シラスの水揚量が10月から急増し、10月は過去5年比で168.2%とここ5年で最高の水揚を記録した昨年並みであった。 ・12月、海洋観測の塩屋崎沖距岸60海里より沖合の定点の200m深において14以上の水温を記録した。 |

| | | | | | |
|-------------------------------|---|---|---|--|---|
| <p>常磐南部～鹿島灘(茨城県沿岸;茨城水試発表)</p> | <p>9月は黒潮系暖水が常磐北部から波及した。表層水温は23～26℃で、「やや低い」～「高い」となった。また100m深水温は10～14℃で、常磐南部で「やや低い」～「高い」、鹿島灘で「極めて低い」～「やや高い」となった。</p> <p>10月は中旬以降、黒潮が鹿島灘沖から常磐南部沖を急激に北上した。表層水温は20～26℃で、常磐南部で「低い」～「高い」となった。また100m深水温は12～20℃で常磐南部で「やや低い」～「極めて高い」、鹿島灘で「やや低い」～「やや高い」となった。</p> <p>11月は黒潮系暖水が鹿島灘を中心に南部から波及した。表層水温は18～25℃で、常磐南部および鹿島灘で「平年並み」～「極めて高い」となった。また100m深水温は15～19℃で常磐南部で「平年並み」～「高い」、鹿島灘で「平年並み」～「極めて高い」となった。</p> | <p>黒潮はN型で南偏している。また、本県沖合の143°E付近に暖水塊が発生している。黒潮系暖水が鹿島灘の南方から常磐南部に向かい波及しており、表面水温は16～22℃で、常磐南部で「やや低い」～「極めて高い」、鹿島灘で「平年並み」～「高い」となった。また100m深水温は14～20℃で、常磐南部で「平年並み」～「極めて高い」、鹿島灘で「平年並み」～「高い」となった。</p> | <p>水温は全ての水深帯で12月～2月にかけて徐々に下がると推測される。平年偏差は親潮系水が南下した場合に低くなるが、期を通じて概ね「平年並み」～「高い」で推移すると推測される。</p> | <p>水温は、季節変動として1～2月は下降する傾向がある。また、12月現在、本県沖合の143°E付近に暖水塊が存在し、この影響から平年偏差は概ね正偏差である。今後急激な海況の変化(親潮系水の急激な南下)がなければ、このまま1～2月まで正偏差が続くと考えられる。</p> | <p>10月下旬頃、マイワシが常陸那珂港にて大量に釣れているとの情報があった(後にそれより約1ヶ月前から釣れていたとの情報もあった)。さらにそこから1週間後頃に大洗港においてもマイワシやイナダが大量に釣れているとの情報があった。11月中旬以降は釣れなくなった様であった。</p> |
|-------------------------------|---|---|---|--|---|

各階級の水温平年偏差の範囲

| 階級区分(出現率) | 三陸北部 | 三陸中部 | | 三陸南部 | 常磐北部 | 常磐南部～鹿島灘 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 距岸10海里内 | 距岸10～70海里 | | | |
| 極めて高い(2.5%) | +2.4～ | +4.0～ | +6.0～ | +2.4～ | +4.0～ | +4.0～ |
| 高い(7.5%) | +1.6～+2.3 | +2.5～+3.9 | 4.0～+5.9 | +1.6～+2.3 | +2.5～+3.9 | +2.5～+3.9 |
| やや高い(20%) | +0.7～+1.5 | +1.0～+2.4 | 1.5～+3.9 | +0.7～+1.5 | +1.0～+2.4 | +1.0～+2.4 |
| 平年並み(40%) | +0.6～-0.6 | +0.9～-0.9 | 1.4～-1.4 | +0.6～-0.6 | +0.9～-0.9 | +0.9～-0.9 |
| やや低い(20%) | -0.7～-1.5 | -1.0～-2.4 | 1.5～-3.9 | -0.7～-1.5 | -1.0～-2.4 | -1.0～-2.4 |
| 低い(7.5%) | -1.6～-2.3 | -2.5～-3.9 | 4.0～-5.9 | -1.6～-2.3 | -2.5～-3.9 | -2.5～-3.9 |
| 極めて低い(2.5%) | -2.4～ | -4.0～ | -6.0～ | -2.4～ | -4.0～ | -4.0～ |